タイトル

笑う人形

物語案

作者:中島康太

ストーリー①

登場人物

主人公⇒肝試しに来た巻き込まれ者

成人女性の幽霊⇒主人公のお母さん

呪術者⇒悪い奴

人形⇒呪術者が呼び出した悪霊

平成の最後の夏、遊び半分で肝試しをすることになった主人公。地域で有名な不気味の悪い廃墟に入ることになった。廃墟に入った途端鍵がかかり出られなくなる。なんとそこは、そこは呪いの人形が住み着く呪いの館だった。呪いの人形による攻撃を受ける主人公。主人公を味方する成人女性の幽霊。彼女はいったい何者なのか？部屋を脱出するために廃墟の奥に進んでいくと魔法陣の部屋にたどり着く。なんと魔法陣の部屋は、現世に恨みを持ち悪霊を呼びだそうとした呪術者が召喚の儀式を行った場所だった。悪霊の住処である魔法陣の部屋から鍵を盗み出し主人公は脱出することができた。

ストーリー②

登場人物

主人公⇒黒い空間から目覚めた主人公記憶なし

成人女性の幽霊⇒主人公を救う

人形⇒主人公に襲い掛かってくる

黒い空間から目覚めた主人公は、右手に表示される指示に従い廃屋を探索する。その指示は、娘を生き返らせるために命を捨てたお母さんによるものだった。娘を生き返らせるときに悪い悪霊も一緒に呼び寄せてします。スタート地点から廃屋の部屋が生死のはざまで魔法陣の部屋から鍵で脱出するところまでが現世に帰還する。